

(3) 現場の職員の困り感調査（アンケート調査）

①目的

発達支援の現場は、多様な障害特性を持ち、様々な環境の中で行われている。各現場ではより良いものを提供できるよう日々取り組み・実践が行われている。

支援者としてどんな支援スキルや知識を求め、日々の支援をより質高くしていきたいと願っているのかを掴むため、現場の困り感の視点より、調査・分析することを目的としアンケート調査を行った。

また、現場が求めている質を高め、より子どもにとって良い支援を提供できる人材育成やその環境の仕組み等についても検討していく。

②概要

I. 調査対象

全国児童発達支援協議会（CDS）加盟の児童発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所で直接支援に携わっている職員

II. 実施方法

アンケート回答用の回答フォームを Google フォームで作成し、回答者に直接入力・登録していただく方法で実施した。具体的には、Web サイトの URL、QR コードを含む調査の実施方法が記載された依頼文及び調査票を、全国児童発達支援協議会（CDS）から加盟団体へメールおよび FAX にて送付した。その後、事業所において、事業所内で 3 名程度の職員（経験年数が異なる者）を回答者として選任してもらい、それぞれの職員が直接回答した。

III. 実施時期

令和 4 年 9 月 21 日～10 月 20 日

IV. 回収結果

対象件数	有効回答数
約 1500	423

V. 調査項目

経験年数を次の 7 段階に分けて実施した

- ・ 3 か月未満
- ・ 3 か月～1 年未満
- ・ 1 年以上 3 年未満

- ・ 3年以上5年未満
- ・ 5年以上7年未満
- ・ 7年以上10年未満
- ・ 10年以上

5つのカテゴリーごとに、合計51項目で行った。

- i. 自分の問題 4項目
- ii. 発達支援（本人との関り）26項目
- iii. 地域支援2項目
- iv. 家族支援8項目
- v. 支援を取り巻く環境 11項目

自分問題	1.子どもとの関係の中でネガティブな気持ちになる
	2.自分と子どもの関わりを通して、自分について振り返り、見つめ直すことで生じる自分の問題（トラウマ等）
	3.自分の価値観と支援の在り方のギャップについて
	4.身体上・健康上の問題（体力がなくて子どもが追いかけられない、腰が痛い等）
発達支援（本人との関わり）	1.障害とは何かについて理解し、適切な対応（支援）を行う
	2.発達支援の意味について理解し、適切な対応（支援）を行う
	3.個々のこだわりへの対応
	4.こどもの気持ちのくみ取り
	5.受け止めるところと、導くところの境界線
	6.その子に合った学習支援について
	7.指示が入りにくい子どもへの対応の難しさ
	8.子ども同士のトラブルの対応
	9.次のプログラムへの切り替えが難しい子どもへの対応
	10.子どもがパニックや癇癪を起こしたときのクールダウンのさせ方
	11.子どもとのコミュニケーションの難しさ
	12.実施した発達支援の妥当性への悩み・不安
	13.専門知識の不足について（子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など）
	14.プログラム、スケジュール、課題を考えること
	15.発達段階を見立てて、どのような関わりや方法がいいのか

	16.小さな子から中学生まで、重度の子から中学生の学習支援まで、個人で担当する発達支援の幅が広すぎる
	17.集会のリーダーをした時の子どもの注意の集め方
	18.絵本など視覚教材の使い方
	19.支援教材づくりの難しさ
	20.手遊びのやり方
	21.大きな声を出す、動き回る、離席する等の集団参加が難しい子がいる場合の適切な対応の仕方（本人、集団、他児童の配慮含む）
	22.子どもから暴言暴力を受けた時の適切な対応の仕方
	23.子どもへの他害、自傷行為への対応
	24. 散歩等で子どもの安全を守ること
	25.食事の支援
	26. 排泄、着脱等（食事を除く）の日常生活動作の支援
地域	1.外部機関との連携の難しさ
	2.地域資源がなくて繋がられない
家族支援	1.保護者との関係づくりが難しい
	2.子どもが怪我をしたときの保護者への対応
	3.保護者と支援者との間の子どもに対する認識のズレ
	4.困り感（外国籍や知的障害、精神疾患等）のある保護者とのコミュニケーションの難しさ
	5.批判的な保護者との関係づくり
	6.不適切な子育てをしている保護者への支援
	7.事業所内面談の時間をとるのが難しい
	8.子ども本人だけでなく家族も含めて支援していくことの難しさ
支援をとりまく環境	1.事業所（組織）の方針が理解できない
	2.ほかの職員や上司、部下との情報共有
	3.建物の構造
	4.教材・設備が限定的である
	5.同じ事業所の人間でも、発達支援を専門に長期にわたり行っているものがないため、相談しても不安が常に付きまとう
	6.発達支援のケースカンファレンスで議論ができない、自分の意見が言えない
	7.支援の後片付けや整理と次の計画と準備に必要な十分な時間がとれない
	8.人員不足

	9. 日々の発達支援がマンネリ化している。
	10. 職場内の人間関係に関する悩み
	11. 研修が足りない

回答にあたっては、次の5つから選択する方式をとった

- ・ とても困っている
- ・ 困っている
- ・ あまり困っていない
- ・ 全く困っていない
- ・ 関係業務を行っていない

VI. 補足

本調査においては、以下の補足をおいて調査を行った。

「特定の子どもに困らされている等の子ども自身に対する困り感ではなく、障害児を支援する者として適切な支援をする上での困り感について回答すること。

例：支援にあたっての知識・方法・技術・経験等の不足（適切な支援・方法がわからない、知識があってもうまくできない等）」

③回答者の基礎情報

回答数423件であった。

I. 事業所の種類

	全体
児童発達支援センター	222
児童発達支援事業	132
放課後等デイサービス事業	148
保育所等訪問支援	74
居宅訪問型児童発達支援	12
医療型児童発達支援	43
その他	
児童発達支援のみ（センター除く）	47
放課後等デイサービスののみ	59
多機能・一体型	58

II. 回答者の所持資格

回答者の多くは、保育士・児童指導員であった。

回答者の所持資格 ※重複回答あり

保育士	255
児童指導員	97
教員免許（特別支援等の障害児に関わるもの）	25
教員免許（特別支援等以外）	59
幼稚園教諭	144
社会福祉士	35
介護福祉士	26
精神保健福祉士	9
看護師（准看護師、助産師、保健師含む。）	10
公認心理師	15
臨床心理士	8
臨床発達心理士	1
学校心理士	1
資格はもっていない	11
作業療法士	16
理学療法士	11
言語聴覚士	24
音楽療法士	3

III. 障害児支援の経験

3か月未満	2
3か月以上1年未満	36
1年以上3年未満	90
3年以上5年未満	70
5年以上7年未満	61
7年以上10年未満	57
10年以上	107

④結果・分析

今回の調査結果の分析については、回答者の資格所持者の割合が、保育士・児童指導員・幼稚園教諭で66%を占めており、分析においては、資格による比較はせず、経験年数による状況を分析する形をとった。

分析にあたって、

- 1) すべての経験年数の職員の困り感について
- 2) 経験年数ごとの困り感について
- 3) 経験年数の変化による困り感について
- 4) 1年目未満と10年目以上の困り感について
- 5) すべての経験年数の職員の困り感「あまり困らない+全く困らない」について

の視点から行った。

1) すべての経験年数の職員の困り感について

経験年数による困り感の状況はさまざまであったが、全体平均において「とても困っている+困っている」が60%以上を占めた項目をみると、以下の通りであった。

- ・子ども本人だけでなく家庭を含めて支援していくことの難しさ；71.3%：家族支援
- ・不適切な子育てをしている保護者への支援；68.1%：家族支援
- ・人員不足；67.6%：支援を取り巻く環境
- ・保護者と支援者との間の子どもに対する認識のずれ 65.0%：家族支援
- ・専門知識の不足について（子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など）；62.5%：発達支援
- ・困り感（外国籍・精神疾患）のある保護者とのコミュニケーションの難しさ；62.0%：家族支援
- ・支持の入りにくい子どもへの対応の難しさ；60.6%：発達支援

今回の調査した、事業所種別及び経験年数すべての支援者が共通する、「とても困っている+困っている」項目は、家族支援・発達支援の項目であった。この項目については、【すべての経験年数困り感高い項目】と、とらえられる。

家族支援の内容として、“家族を含めた支援”、“不適切な子育てをしている保護者への支援”、“保護者との子どもの認識のずれ”、“困り感（外国籍・精神疾患）ある保護者”などである。家族に対するアセスメントやより個別的な配慮が支援に求められている現状がうかがえる。発達支援の内容においても、“専門知識の不足”、“支持

の入りにくい子どもへの対応“など、子どもの発達や特性、様々な環境等の影響を受けている子ども理解とその対応への難しさがうかがえる

2) 経験年数ごとの困り感について

【全年代困り感高い項目】「とても困っている+困っている」項目について、経験年数ごとの困り感を見ていくと、経験年数による「困り感」の変化をうかがうことができる。困り感の状況を比較すると、高いピークを示す困り感の項目が経験年数により違う。

・「子ども本人だけでなく家庭を含めて支援していくことの難しさ」(71,3%家族支援)は、すべての支援者が70%前後の困り感を持っているが、3～5年未満の経験者のみ83.3%と大きな困り感を示していた。今回は、このような傾向を【①ある年代突出タイプ項目】とした。

・「不適切な子育てをしている保護者への支援(家族支援)」「困り感(外国籍・精神疾患)ある保護者とのコミュニケーションの難しさ(家族支援)」については、経験年数が少ない時の困り感が60%以下であったが、「不適切な・・・」項目については、3年以上から67%と増加し、経験が増すほど困り感も増加し、7年以上では78%、10年以上でも75%と高くなっている。

・同様に、「困り感(外国籍・精神疾患)・・・(家族支援)」項目については、5年目以上から困り感が63%と増加し、7年目67.9%、10年目66.3%と困り感の高さが継続していた。このような傾向については、【②経験年数による出現継続タイプ項目】とした。

・「支持の入りにくい子どもへの対応の難しさ(発達支援)」については、1年未満77%、3年未満71%と高いが、5年未満62%、7年未満65%と困り感が低くなり、7年以上になると54%、10年以上では45%と経験が増えることで、困り感が減っていた。同様な傾向は、「専門知識の不足について(子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など)(発達支援)」にもみられた。このような傾向を【③経験年数による減少タイプ項目】とした。

項目による、困り感の高さを、経験年数毎に比較することで、支援者が現場で感じる困り感が、経験年数により変わっている様子がうかがえる。また、その形も、ある経験年数に困り感が強く出る項目【①ある年代突出タイプ】、経験年数を重ねる

ことで困り感が増えていく項目【②経験年数による出現継続タイプ】、経験により困り感が減り人材育成され解消していったと推測される項目【③経験年数による減少タイプ】と分類してみた。

すべての経験年数で困り感の高い項目ではあるが、困り感の経験年数による変化をみることで、経験年数による現場の支援者の育成、サポートする視点と捉え、研修等何らかの形で支援の質や専門性の向上、離職防止等、取り組みを考え、検討・吟味していくポイントとしてとらえることができるのではないかと考える。困り感の高くなる時期を支援の質が求められる時期と捉え、OJT や研修等支援者育成のポイントであると見える。

3) 経験年数の変化による困り感について

経験年数による困り感の変化項目を、困り感の3つのタイプを活用し、経験年数ごとに全項目での状況をみた。

イ) 【①ある年代突出タイプ】ある経験年数に困り感が強く出る項目

・「子ども本人だけでなく家庭を含めて支援していくことの難しさ（家族支援）」の項目は、すべての経験年数者が70%前後の困り感がある項目であるが、3年以上5年未満の年代で83%と突出していた。

・「実施した発達支援の妥当性への悩み・不安（発達支援）」の項目は、3か月以上1年未満（69.4%）と5年以上7年以内で（66.7%）に高くなっていた。

・「批判的保護者との関係づくり（家族支援）」の項目は5年以上7年未満（73.6%）で困り感が他より高くみられた。

・「外部機関との連携の難しさ（地域支援 63.3%）」と「支援の後片付けや整理と次の計画と準備に必要な時間がとれない（支援を取り巻く環境・64.9%）」も5年以上7年目で困り感が他より高くみられた。

ロ) 【②経験年数による減少タイプ】経験により困り感が減り人材育成され解消していったと推測される項目

・専門知識の不足について（子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など）（発達支援・82.9%）

・支持の入りにくい子どもへの対応の難しさ（発達支援・77.8%）

については、就職から3年未満の年代が82.9～71.9%と困り感が高く出ていたがその後減少。

- ・大きな声を出す、動き回る、離席する等の集団参加が難しい子がいる場合の適切な対応の仕方（本人、集団、他児童の配慮含む）（発達支援・72.2%）
- ・受け止めるところと、導くところの境界線（発達支援・77.8%）
- ・発達段階を見立てて、どのような関わりや方法がいいのか
（発達支援・67.6%）
- ・プログラム、スケジュール、課題を考えること（発達支援・70.6%）
- ・子どもがパニックや癇癪を起こしたときのクールダウンのさせ方
（発達支援・77.8%）

については、3か月から1年未満に高く、1年以上3年未満でも継続して高いが3年以上の経験になると徐々に減少していた項目であった。

ハ) 【③経験年数による出現タイプ】 経験年数を重ねるなかで困り感が増えた項目

- ・不適切な子育てをしている保護者への支援（発達支援・78.2%～75.3%）
- ・保護者と支援者との間の子どもに対する認識のズレ
（家族支援・68.4%～67.0%）
- ・困り感（外国籍や知的障害、精神疾患等）のある保護者とのコミュニケーションの難しさ（家族支援・67.9%～66.3%）
- ・外部機関との連携の難しさ（地域支援・63.3%）
- ・批判的な保護者との関係づくり（家族支援・73.5%）

上記項目については3年未満では低く、7年以上10年未満で困り感が高くなった。

- ・その子に合った学習支援について（発達支援・63.9%）
- ・子どもへの他害、自傷行為への対応（発達支援・59.4%）
- ・支援教材づくりの難しさ（発達支援・64.7%）

上記項目については、3年以上5年未満で困り感が他より高くなった。

困り感の高くなる時期をみると、1年未満の新人の時期・3年～5年・7年～10年と新人期・3年・7年が支援現場では変化の時期であることがうかがえる。この経験年数により困り感が高くなる時期が、専門性や質を高めていく次のステップととらえることができるのではないか。現場の支援者の「困り感」の高まりという感覚と連動させていくことも可能であり、より必要なタイミングに合わせた育成や、事前学習としてのこれからを見通すことを含めた育成につながるのではないだろうか。

3年目、5～7年目というある年代に突出して困り感が高くなる点については、推測でしかないが、目の前の子どもだけでなく家族への視点や、“子どもにとって”の支援を深く見つめる視点がうかがえる。支援者が目の前の子どもとの実践の中で、“その子にとって”、“最善を考える”を試行錯誤しながら進める中で、生まれてくる項目と考える。

経験年数の若い人は発達支援項目が多く、「子どものパニックへの対応」「専門知識の不足」などは、経験年数が上がると減少していく項目であった。

7年目以上に「保護者対応」「外部機関との関係づくり」の項目に困り感が高くなる。7年目以上については、経験したからこそ多様な状況にある対象児やその家族の課題に共に取り組み・地域で暮らすことまで広く考え取り組んで行く役割を求められ、その役割を果たしている現場がうかがえる。「家族支援」「地域支援」の困り感の高さは、現場での頑張りや「家族支援」「地域支援」の難しさもうかがえるのではないだろうか。

4) 1年目未満と10年目以上の困り感について

10年目以上と1年未満の困り感（とても困って+困っている）について、10年目以上と1年未満とで共通の困り感の項目と、1年未満では高いが10年以上では困り感が減少している項目を比較した。（60%以上の項目）

イ) 共通している困り感の項目 （項目・1年未満／10年目）

- ・子ども本人だけでなく家庭を含めて支援していくことの難しさ
(家族支援・69.7%/9.3%)
- ・人員不足 (支援を取り巻く環境・61.1%/67.3%)
- ・保護者と支援者との間の子どもに対する認識のずれ
(家族支援・62.5%/67.0%)

ロ) 1年未満で困り感の高い項目、10年以上の経験者では減少している項目

- ・専門知識の不足について (発達支援・82.9%→48.6%)
(子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など)
- ・支持の入りにくい子どもへの対応の難しさ (発達支援・77.8%→45.8%)
- ・大きな声を出す、動き回る、離席する等の集団参加が難しい子がいる場合の適切な対応の仕方 (本人、集団、他児童の配慮含む)
(発達支援・72.2%→41.2%)
- ・受け止めるところと、導くところの境界線 (発達支援・77.8%→45.8%)

- ・発達段階を見立てて、どのような関わりや方法がいいのか
(発達支援・67.6%→39.6%)
- ・プログラム、スケジュール、課題を考えること (発達支援・70.6%→42.2%)
- ・実施した発達支援の妥当性への悩み・不安 (発達支援・69.4%→43.4%)
- ・子どもがパニックや癩癩を起こしたときのクールダウンのさせ方
(発達支援・77.8%→52.6%)
- ・個々のこだわりへの対応 (発達支援・61.1%→36.4%)
- ・こどもの気持ちのくみ取り (発達支援・61.1%→29.0%)
- ・発達支援の意味について理解し、適切な対応(支援)を行う
(発達支援・69.4%→27.1%)

1年未満の経験期間の中では【発達支援】の項目がほとんどであった。「専門知識」「子どもとの関係(発達段階の見立て、発達支援の妥当性)のつくり方」「具体的場面での対応やかかわり方」など、現場で子どもの理解や支援に対する試行錯誤が行われている状況がうかがえる。

また、1年未満の経験者としては、定型発達の子どもとの支援の違いを、各事業所の中で、指導・助言等を受けながら、【発達支援】として学び、実践を通して理解し、支援ができるまでのプロセスが行われている。これらの「困り感」の視点を活かすことが、研修や人材育成を行う上で、新人たちへのサポートにもつながるのではないか。

5) すべての経験年数の職員の困り感「あまり困らない+全く困らない」について

すべての支援者が「あまり困っていない+全く困っていない」65%以上の項目をあげると、以下の項目となった。

- ・発達支援のケースカンファレンスで議論ができない、自分の意見が言えない
(支援を取り巻く環境・87.2%)
- ・自分と子どもとの関わりを通して、自分について振り返り、見つめ直すことで生じる自分の問題(トラウマ等) (自分問題・84.1%)
- ・子どもとの関係の中でネガティブな気持ちになる(自分問題・80.6%)
- ・散歩等で子どもの安全を守ること (発達支援・80.0%)
- ・手遊びのやり方 (発達支援・77.7%)
- ・絵本など視覚教材の使い方(発達支援・76.2%)
- ・排泄、着脱等(食事を除く)の日常生活動作の支援(発達支援・76.0%)
- ・子どもが怪我をしたときの保護者への対応 発達支援・(家族支援・74.1%)

- ・自分の価値観と支援の在り方のギャップについて (自分問題・73.5%)
- ・自分と子どもの関わりを通して、自分について振り返り、見つめ直すことで生じる自分の問題 (トラウマ等) (自分問題・84.1%)
- ・身体上・健康上の問題 (体力がなくて子どもが追いかけてられない、腰が痛い等) (自分問題・70.6%)
- ・子どもとのコミュニケーションの難しさ (発達支援・70.4%)
- ・研修が足りない (支援を取り巻く環境・69.7%)
- ・職場内の人間関係に関する悩み (支援を取り巻く環境・67.8%)
- ・事業所 (組織) の方針が理解できない。 (支援を取り巻く環境・87.2%)

困り感として「あまり困っていない+全く困っていない」割合が、3か月以上1年未満では88.9%~71%であり、10年以上でも92%~78.3%と高い状況であった。

「支援を取り巻く環境」「自分問題」の多くの項目は困り感が低い状況であり、今回のアンケート協力者以外の事業所においては、働く環境や、自分の意見が言えるなど支援者が自分の力を出せる状況にあることがうかがえる。日本中の事業者がこのような状況であることを願う。

また、発達支援の項目の中でも「さんぽ・・・」「絵本」「日常生活動作」「子どもとのコミュニケーション」「けがの対応」など、保育士等の養成課程の中や、対人直接援助の基本スキルについては、「困り感」低く行われている現状をうかがうことができる。

しかし、困り感の高い項目として「子どもが癇癪やパニックを起こしたときの対応」「専門知識の不足」などあることを含めると、散歩や絵本を読み聞かすことはできるが、急に走り出したり、椅子に座らないなどの状況に対応の難しさである。

子どもの特性や発達に対する理解を含めた支援が発達支援では求められていると捉えることもできる。

⑤考察

I 家族支援への困り感への対応

「子ども本人だけでなく家族を含めた支援」「不適切な子育てをしている保護者への支援」「保護者との子どもに対する認識のずれ」「困り感 (外国籍・精神疾患) のある保護者とのコミュニケーション」などが挙げられ、家族支援の中でも、家族の状況やその関係性、対応への配慮が必要な状況が現場にある。

そのような家族に対する支援を困り感が高い中、その必要性を感じ、試行錯誤している現場が見えてきた。

児童発達支援の中では、「家族支援」の部分に対する視点を重視し、これまで以上に丁寧に、科学的に捉えていくことは必要と考える。

経験年数が10年以上あっても、難しい家族支援。各事業所単独で解決していけるものではないし、児童発達支援の中では支援の質の向上が求められる。

家族支援に対する、正しい知識やアセスメント方法、多様な支援など、現場で試行錯誤している実践等も積み重ね、共有していくことが今後求められていくと考える。

II 専門性を支える環境づくり

幼稚園保育園等の現場と比較はできていないが、困り感が高い項目を専門性が求められる支援ととらえると、発達支援の部分では、多様な発達のすがたや・特性を持つ子どもたちを多様な専門性を活かした支援が必要な現場がある。

この多様な状況を、より子どもにとって多角的に、多様な視点からアセスメントできる力や、子どもにとっての最善な支援を行うための正しい、最新の知識や技術を活かせる力、それを、子どものみでなく、「家族」や「地域」の関係性も含めた支援を行い、つなげていくことも必要になっていくと考える。

今回のアンケートの中では、以下の声があった。

- ・職員で連携することで解決できることも多くある。
- ・様々な対応方法を学んだことで保護者との関係づくりに役立った。
- ・事務作業の多さで余裕がなくなっている。
- ・職員不足、やめてしまったり、休んだ場合の人員確保にとっても困っている。
- ・経験年数の多さは、指導する側となる、責任の大きさ等も求められ、答えのない中で考えることが多い。
- ・チームで仕事をすることで困り感は軽減される。

「職員の連携が解決につながる」「チームで仕事をするのが困り感を軽減」「多様な対応方法が役立つ」など、多様な職員の協働・チームとしての支援が児童発達支援には求められている。

職員不足は多くの事業所からも声が聴かれたが「家族」や「地域」支援を進められる人的な環境づくりも必要といえるだろう。事業所で、すべてを専門家をそろえることができない状況もあることを考えると、地域とのつながりの中で、専門家でなくても、専門性を高め共有することも支援の質につながっていくことになる。

Ⅲ 経験年数による困り感から今後に向けて

今回の調査では1年未満では、

困り感が少ない項目にあった「さんぽ・・・」「絵本」「日常生活動作」「子どもとのコミュニケーション」「けがの対応」など、保育の基本をベースに支援がスタートし、パニックになったり、子どもの気持ちを汲み取ることを通して発達支援としての専門性を身につけていくプロセスがあると思われる。

今回の調査対象では、「支援に関わる環境」や、「自分問題」に困り感の少ない結果がみられた。各事業所で人材を育成し、提供している現場があることが、今回の調査の中で分かった。今回の調査はすべてではないので、全国の事業者にも共通していることを願う。

現場経験の状態を困り感の変化から1) 新人期、2) 経験3年～7年と分類した。各段階での困り感を「子どもにとって」「家族にとって」「地域にとって」より良い支援にステップアップできるよう、体系的な現場を支援する仕組みがあるとよい。

より良い支援・離職者対策、実践の積み重ねなど、これからも新たな課題に対応できる仕組みを通じて、どこに暮らしても、安心して生活し活動できる環境に繋がっていくことになるのではないだろうか。

第1段階 新人期

実践していく中で困り感も改善することが見えている、基本的な専門知識や子どもの発達状況や特性に合わせた対応の基本など、発達段階を見立て、個別・集団のプログラム等を作成できるベースを獲得することができる環境・研修等の提供

第2段階 経験3年・7年の時期

3年では「その子に合った支援」「他害や自傷行為への対応」など対応の難しい子ども等支援を深める時期ととらえることができる。

7年頃では、調査で見えてきた「不適切な子育てをしている保護者への支援」「批判的な保護者との関係づくり」など、保護者「家族」の視点や、「外部機関との連携の難しさ」など「地域」がキーワードとして重要になってくる時期ととらえることができる。

知識や技術が身につけてきた支援者にとって、知識や技術のバージョンアップも必要である。さらに、多様な発達と特性を持つこどもの「発達支援」がより「その子にとっての最善な支援」になって行くために、見立ての力・支援環境や支援方法の充実が自分の実践とつながり、継続改善されていく支援方法が求められる。そこには、支

援と環境を創り出していけるクリエイティブな視点を持った柔軟な力を育成できる環境づくりや研修の提供も必要となってくるのではないだろうか。

IV 最後に

支援者も学び、支援できるやりがいや支援を通じて、家族や地域が元気になっていける研修等の環境づくりが今後さらに重要になっていくのではないだろうか。

そして、その研修の中で、全国の様々な実践を学び合い、情報交換を行い、意見交換を熱く語れる仲間との出会いがあり、つながっていける環境・場があることを保障してゆけることが望ましい。

そのためにも、各事業所の中で、自分たちの住む地域の中で各事業所同士、全国や他の地域の方たちと学び合える多様な環境づくりが必要と考える。

福祉の現場は人材不足である現状を、そのような状況の中でも、今子どもたちのために支援をしている人たちが実践を重ねている。今いる支援者がやりがいをもって、支援を行い、すべての子どもたちが地域で豊かに生きていける環境づくりには、今の現場がこれ以上疲弊しない環境づくりとして、「学び合う」「つながる」中で、困り感をチャンスととらえてチャレンジでき、見通しを持てる仕組みが必要と考える。

全体として「とても困っている」+「困っている」が多かった順に並べたもの

	とても困っている+困っている							あまり困っていない+全く困っていない						
	N数:423	N数:36	N数:90	N数:70	N数:61	N数:57	N数:107	N数:423	N数:36	N数:90	N数:70	N数:61	N数:57	N数:107
	全体	3か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上7年未満	7年以上10年未満	10年以上	全体	3か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上7年未満	7年以上10年未満	10年以上
8.子ども本人だけでなく家族も含めて支援していくことの難しさ	71.3%	69.7%	67.4%	83.8%	68.3%	70.2%	69.3%	28.7%	30.3%	32.6%	16.2%	31.7%	29.8%	30.7%
6.不適切な子育てをしている保護者への支援	68.1%	57.7%	58.3%	67.7%	63.6%	78.2%	75.3%	31.9%	42.3%	41.7%	32.3%	36.4%	21.8%	24.7%
8.人員不足	67.6%	61.1%	66.3%	72.9%	66.7%	70.2%	67.0%	32.4%	38.9%	33.7%	27.1%	33.3%	29.8%	33.0%
3.保護者と支援者との間の子どもに対する認識のズレ	65.0%	62.5%	64.8%	62.3%	63.3%	68.4%	67.0%	35.0%	37.5%	35.2%	37.7%	36.7%	31.6%	33.0%
13.専門知識の不足について（子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など）	62.5%	82.9%	74.4%	60.0%	63.9%	58.9%	48.6%	37.5%	17.1%	25.6%	40.0%	36.1%	41.1%	51.4%
4.困り感（外国籍や知的障害、精神疾患等）のある保護者とのコミュニケーションの難しさ	62.0%	57.7%	55.7%	58.2%	63.2%	67.9%	66.3%	38.0%	42.3%	44.3%	41.8%	36.8%	32.1%	33.7%
7.指示が入りにくい子どもへの対応の難しさ	60.6%	77.8%	71.9%	62.3%	65.6%	54.4%	45.8%	39.4%	22.2%	28.1%	37.7%	34.4%	45.6%	54.2%
7.支援の後片付けや整理と次の計画と準備に必要な時間がとれない	56.5%	34.3%	59.8%	52.9%	55.7%	64.9%	59.6%	43.5%	65.7%	40.2%	47.1%	44.3%	35.1%	40.4%
5.批判的な保護者との関係づくり	56.0%	50.0%	53.1%	53.8%	50.9%	73.6%	55.7%	44.0%	50.0%	46.9%	46.2%	49.1%	26.4%	44.3%
21.大きな声を出す、動き回る、離席する等の集団参加が難しい子がいる場合の適切な対応の仕方	55.9%	72.2%	66.3%	56.7%	63.9%	48.2%	41.2%	44.1%	27.8%	33.7%	43.3%	36.1%	51.8%	58.8%
5.受け止めるところと、導くところの境界線	55.5%	77.8%	62.9%	57.1%	49.2%	52.6%	45.8%	44.5%	22.2%	37.1%	42.9%	50.8%	47.4%	54.2%
15.発達段階を見立てて、どのような関わりや方法がいいのか	54.8%	67.6%	65.6%	58.6%	55.7%	54.4%	39.6%	45.2%	32.4%	34.4%	41.4%	44.3%	45.6%	60.4%
14.プログラム、スケジュール、課題を考えること	54.5%	70.6%	66.3%	57.1%	52.5%	47.3%	42.2%	45.5%	29.4%	33.7%	42.9%	47.5%	52.7%	57.8%
12.実施した発達支援の妥当性への悩み・不安	53.8%	69.4%	54.4%	57.1%	45.9%	66.7%	43.4%	46.2%	30.6%	45.6%	42.9%	54.1%	33.3%	56.6%
1.外部機関との連携の難しさ	52.9%	45.5%	43.5%	57.1%	54.2%	63.3%	52.6%	47.1%	54.5%	56.5%	42.9%	45.8%	36.7%	47.4%
10.子どもがパニックや痙攣を起こしたときのクールダウンのさせ方	51.1%	77.8%	53.9%	58.6%	45.9%	54.4%	36.8%	48.9%	22.2%	46.1%	41.4%	54.1%	45.6%	63.2%
9.日々の発達支援がマンネリ化している。	50.7%	38.9%	51.1%	52.9%	49.2%	54.4%	51.9%	49.3%	61.1%	48.9%	47.1%	50.8%	45.6%	48.1%
6.その子に合った学習支援について	50.6%	58.1%	48.0%	63.9%	43.1%	63.3%	37.8%	49.4%	41.9%	52.0%	36.1%	56.9%	36.7%	62.2%
23.子どもへの他害、自傷行為への対応	49.4%	50.0%	43.2%	59.4%	46.7%	53.6%	48.1%	50.6%	50.0%	56.8%	40.6%	53.3%	46.4%	51.9%
19.支援教材づくりの難しさ	49.3%	54.5%	48.2%	64.7%	49.2%	55.6%	35.4%	50.8%	45.5%	51.8%	35.3%	50.8%	44.4%	64.6%
3.個々のこだわりへの対応	49.2%	61.1%	50.0%	48.6%	52.5%	61.4%	36.4%	50.8%	38.9%	50.0%	51.4%	47.5%	38.6%	63.6%
9.次のプログラムへの切り替えが難しい子どもへの対応	44.7%	58.3%	48.9%	54.3%	41.7%	40.4%	34.0%	55.3%	41.7%	51.1%	45.7%	58.3%	59.6%	66.0%
3.建物の構造	40.9%	30.6%	33.7%	39.1%	39.3%	49.1%	47.7%	59.1%	69.4%	66.3%	60.9%	60.7%	50.9%	52.3%
1.保護者との関係づくりが難しい	40.8%	48.5%	43.3%	45.7%	37.7%	42.1%	34.0%	59.2%	51.5%	56.7%	54.3%	62.3%	57.9%	66.0%
4.こどもの気持ちのくみ取り	39.7%	61.1%	46.7%	38.6%	34.4%	43.9%	29.0%	60.3%	38.9%	53.3%	61.4%	65.6%	56.1%	71.0%
2.地域資源がなくて繋げられない	39.6%	36.8%	36.2%	41.8%	29.5%	47.6%	42.2%	60.4%	63.2%	63.8%	58.2%	70.5%	52.4%	57.8%
25.食事の支援	39.4%	45.2%	47.3%	36.4%	38.0%	43.8%	31.1%	60.6%	54.8%	52.7%	63.6%	62.0%	56.3%	68.9%
4.教材・設備が限定的である	39.4%	30.6%	40.4%	33.3%	32.8%	50.0%	44.3%	60.6%	69.4%	59.6%	66.7%	67.2%	50.0%	55.7%
2.発達支援の意味について理解し、適切な対応（支援）を行う	38.8%	69.4%	45.6%	31.4%	39.3%	40.4%	27.1%	61.2%	30.6%	54.4%	68.6%	60.7%	59.6%	72.9%
22.子どもから暴言暴力を受けた時の適切な対応の仕方	38.2%	50.0%	41.4%	49.3%	31.7%	34.5%	30.2%	61.8%	50.0%	58.6%	50.7%	68.3%	65.5%	69.8%
1.障害とは何かについて理解し、適切な対応（支援）を行う	35.2%	58.3%	37.8%	34.3%	34.4%	35.1%	26.2%	64.8%	41.7%	62.2%	65.7%	65.6%	64.9%	73.8%
7.事業所内面談の時間をとるのが難しい	34.8%	23.8%	32.8%	32.2%	18.9%	42.0%	46.2%	65.2%	76.2%	67.2%	67.8%	81.1%	58.0%	53.8%
8.子ども同士のトラブルの対応	34.1%	50.0%	42.0%	33.8%	31.7%	37.5%	22.1%	65.9%	50.0%	58.0%	66.2%	68.3%	62.5%	77.9%
16.小さな子から中学生まで、重度の子から中学生の学習支援まで、個人で担当する発達支援の幅が広い	33.9%	30.8%	33.8%	42.6%	35.6%	35.7%	26.8%	66.1%	69.2%	66.2%	57.4%	64.4%	64.3%	73.2%
10.職場内の人間関係に関する悩み	32.2%	27.8%	31.1%	21.4%	32.8%	36.8%	38.3%	67.8%	72.2%	68.9%	78.6%	67.2%	63.2%	61.7%
17.集会のリーダーをした時の子どもの注意の集め方	31.2%	56.7%	41.9%	37.3%	28.6%	29.6%	12.6%	68.8%	43.3%	58.1%	62.7%	71.4%	70.4%	87.4%
11.研修が足りない	30.3%	22.2%	26.7%	28.6%	32.8%	33.9%	34.6%	69.7%	77.8%	73.3%	71.4%	67.2%	66.1%	65.4%
11.子どもとのコミュニケーションの難しさ	29.6%	33.3%	30.0%	31.4%	27.9%	36.8%	24.5%	70.4%	66.7%	70.0%	68.6%	72.1%	63.2%	75.5%
4.身体上・健康上の問題（体力がなくて子どもが追いかけれられない、腰が痛い等）	29.4%	25.0%	17.8%	27.1%	27.9%	35.1%	39.6%	70.6%	75.0%	82.2%	72.9%	72.1%	64.9%	60.4%
2.ほかの職員や上司、部下との情報共有	29.3%	30.6%	28.9%	32.9%	21.3%	26.3%	33.6%	70.7%	69.4%	71.1%	67.1%	78.7%	73.7%	66.4%
3.自分の価値観と支援の在り方のギャップについて	26.5%	25.0%	35.6%	20.0%	21.3%	36.8%	21.7%	73.5%	75.0%	64.4%	80.0%	78.7%	63.2%	78.3%
2.子どもが怪我をしたときの保護者への対応	25.9%	36.7%	27.6%	28.6%	23.7%	28.1%	20.2%	74.1%	63.3%	72.4%	71.4%	76.3%	71.9%	79.8%
26.排泄、着脱等（食事を除く）の日常生活動作の支援	24.0%	35.3%	32.9%	27.4%	21.4%	24.0%	12.4%	76.0%	64.7%	67.1%	72.6%	78.6%	76.0%	87.6%
18.絵本など視覚教材の用い方	23.8%	27.3%	29.4%	34.3%	16.9%	23.6%	15.7%	76.2%	72.7%	70.6%	65.7%	83.1%	76.4%	84.3%
20.手遊びのやり方	22.3%	28.1%	23.5%	36.5%	22.0%	20.0%	12.2%	77.7%	71.9%	76.5%	63.5%	78.0%	80.0%	87.8%
24.散歩等で子どもの安全を守ること	20.0%	15.2%	18.5%	21.9%	18.5%	24.5%	20.4%	80.0%	84.8%	81.5%	78.1%	81.5%	75.5%	79.6%
1.子どもとの関係の中でネガティブな気持ちになる	18.7%	19.4%	24.4%	24.3%	21.3%	14.0%	11.3%	81.3%	80.6%	75.6%	75.7%	78.7%	86.0%	88.7%
2.自分と子どもの関わりを通して、自分について振り返り、見つめ直すことで生じる自分の問題（悩み）	15.9%	25.0%	20.0%	15.7%	16.4%	17.5%	7.5%	84.1%	75.0%	80.0%	84.3%	83.6%	82.5%	92.5%
6.発達支援のケースカンファレンスで議論ができない、自分の意見が言えない	14.7%	22.9%	18.2%	11.6%	14.8%	17.0%	9.3%	85.3%	77.1%	81.8%	88.4%	85.2%	83.0%	90.7%
5.同じ事業所の人間でも、発達支援を専門に長期にわたり行っているものがないため、相談しても	14.7%	11.1%	12.2%	14.3%	11.5%	17.5%	17.8%	85.3%	88.9%	87.8%	85.7%	88.5%	82.5%	82.2%
1.事業所（組織）の方針が理解できない	12.8%	16.7%	14.6%	12.9%	8.2%	15.8%	10.3%	87.2%	83.3%	85.4%	87.1%	91.8%	84.2%	89.7%

全体

※赤字は、とても困っている+困っているが60%以上のもの		とても困っている	困っている	あまり困っていない	全く困っていない	関係業務を行っていない	とても困っている	とても困っている+困っている	とても困っている+困っている+あまり困っていない	とても困っている+あまり困っていない+全く困っていない	
自分問題	1.子どもとの関係の中でネガティブな気持ちになる	0.5%	16.8%	66.8%	15.3%	0.5%	0.5%	17.5%	84.7%	100.0%	
	2.自分と子どもの関わりを通して、自分について振り返り、見つめ直すことで生じる自分の問題(トラウマ等)	2.1%	13.2%	65.3%	18.9%	0.5%	2.1%	15.3%	81.0%	100.0%	
	3.自分の価値観と支援の在り方のギャップについて	3.7%	22.1%	63.2%	10.5%	0.5%	3.7%	25.9%	89.4%	100.0%	
	4.身体上・健康上の問題(体力がなくて子どもが追いかけてられない、腰が痛い等)	1.1%	24.2%	42.6%	31.6%	0.5%	1.1%	25.4%	68.3%	100.0%	
発達支援(本人との関わり)	1.障害とは何かについて理解し、適切な対応(支援)を行う	1.1%	26.3%	63.2%	9.5%	0.0%	1.1%	27.4%	90.5%	100.0%	
	2.発達支援の意味について理解し、適切な対応(支援)を行う	1.6%	34.2%	55.8%	8.4%	0.0%	1.6%	35.8%	91.6%	100.0%	
	3.個々のこだわりへの対応	3.2%	42.6%	50.5%	3.7%	0.0%	3.2%	45.8%	96.3%	100.0%	
	4.子どもの気持ちのくみ取り	1.6%	38.4%	55.8%	4.2%	0.0%	1.6%	40.0%	95.8%	100.0%	
	5.受け止めるところと、導くところの境界線	4.7%	46.3%	45.3%	3.2%	0.5%	4.8%	51.3%	96.8%	100.0%	
	6.その子に合った学習支援について	3.7%	36.8%	42.6%	1.1%	15.8%	4.4%	48.1%	98.8%	100.0%	
	7.指示が入りにくい子どもへの対応の難しさ	5.3%	50.5%	43.2%	1.1%	0.0%	5.3%	55.8%	98.9%	100.0%	
	8.子ども同士のトラブルの対応	3.7%	31.6%	57.9%	4.2%	2.6%	3.8%	36.2%	95.7%	100.0%	
	9.次のプログラムへの切り替えが難しい子どもへの対応	3.2%	38.4%	55.8%	1.6%	1.1%	3.2%	42.0%	98.4%	100.0%	
	10.子どもがパニックや癇癪を起こしたときのクールダウンのさせ方	8.4%	42.6%	45.8%	2.1%	1.1%	8.5%	51.6%	97.9%	100.0%	
	11.子どもとのコミュニケーションの難しさ	1.1%	27.9%	60.5%	10.0%	0.5%	1.1%	29.1%	89.9%	100.0%	
	12.実施した発達支援の妥当性への悩み・不安	4.7%	45.8%	48.4%	0.5%	0.5%	4.8%	50.8%	99.5%	100.0%	
	13.専門知識の不足について(子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など)	10.5%	47.9%	40.0%	1.1%	0.5%	10.6%	58.7%	98.9%	100.0%	
	14.プログラム、スケジュール、課題を考えること	6.3%	43.7%	45.8%	1.6%	2.6%	6.5%	51.4%	98.4%	100.0%	
	15.発達段階を見立てて、どのような関わりや方法がいいのか	6.8%	45.3%	47.4%	0.0%	0.5%	6.9%	52.4%	100.0%	100.0%	
	地域	16.小さな子から中学生まで、重度の子から中学生の学習支援まで、個人で担当する発達支援の幅が広すぎる	3.2%	17.4%	38.4%	8.9%	32.1%	4.7%	30.2%	86.8%	100.0%
		17.集会のリーダーをした時の子どもの注意の集め方	1.6%	25.3%	56.8%	2.6%	13.7%	1.8%	31.1%	97.0%	100.0%
18.絵本など視覚教材の用い方		0.5%	20.5%	66.3%	7.9%	4.7%	0.6%	22.1%	91.7%	100.0%	
19.支援教材づくりの難しさ		3.7%	43.2%	44.7%	3.7%	4.7%	3.9%	49.2%	96.1%	100.0%	
20.手遊びのやり方		2.6%	18.4%	64.7%	6.8%	7.4%	2.8%	22.7%	92.6%	100.0%	
21.大きな声を出す、動き回る、離席する等の集団参加が難しい子がいる場合の適切な対応の仕方(本人、集団、他児童の配慮含む)		5.8%	48.4%	41.1%	1.6%	3.2%	6.0%	56.0%	98.4%	100.0%	
22.子どもから暴言暴力を受けた時の適切な対応の仕方		2.1%	31.6%	52.6%	7.4%	6.3%	2.2%	36.0%	92.1%	100.0%	
23.子どもへの他害、自傷行為への対応		6.3%	40.0%	49.5%	2.1%	2.1%	6.5%	47.3%	97.8%	100.0%	
24.散歩等で子どもの安全を守ること		1.6%	17.9%	64.2%	4.7%	11.6%	1.8%	22.0%	94.6%	100.0%	
25.食事の支援		2.6%	34.2%	44.2%	2.6%	16.3%	3.1%	44.0%	96.9%	100.0%	
26.排泄、着脱等(食事を除く)の日常生活動作の支援	1.6%	22.1%	61.1%	3.7%	11.6%	1.8%	26.8%	95.8%	100.0%		
家族支援	1.外部機関との連携の難しさ	8.9%	34.2%	37.4%	0.5%	18.9%	11.0%	53.2%	99.4%	100.0%	
	2.地域資源がなくて繋げられない	3.7%	23.2%	42.1%	1.1%	30.0%	5.3%	38.3%	98.5%	100.0%	
	3.保護者との関係づくりが難しい	4.2%	34.2%	59.5%	1.6%	0.5%	4.2%	38.6%	98.4%	100.0%	
	4.子どもが怪我をしたときの保護者への対応	1.6%	20.0%	71.6%	4.2%	2.6%	1.6%	22.2%	95.7%	100.0%	
	5.保護者と支援者との間の子どもに対する認識のズレ	8.9%	54.7%	34.7%	0.5%	1.1%	9.0%	64.4%	99.5%	100.0%	
	6.困り感(外国籍や知的障害、精神疾患等)のある保護者とのコミュニケーションの難しさ	7.9%	51.1%	29.5%	2.6%	8.9%	8.7%	64.7%	97.1%	100.0%	
	7.批判的な保護者との関係づくり	8.4%	41.6%	33.2%	4.2%	12.6%	9.6%	57.2%	95.2%	100.0%	
	8.不適切な子育てをしている保護者への支援	10.5%	45.3%	29.5%	3.2%	11.6%	11.9%	63.1%	96.4%	100.0%	
支援をとりまく環境	9.事業所内面談の時間をとるのが難しい	3.7%	22.6%	47.9%	7.4%	18.4%	4.5%	32.3%	91.0%	100.0%	
	10.子ども本人だけでなく家族も含めて支援していくことの難しさ	13.7%	53.2%	28.9%	0.5%	3.7%	14.2%	69.4%	99.5%	100.0%	
	1.事業所(組織)の方針が理解できない	1.1%	7.9%	60.0%	31.1%	0.0%	1.1%	8.9%	68.9%	100.0%	
	2.ほかの職員や上司、部下との情報共有	4.2%	24.7%	55.8%	15.3%	0.0%	4.2%	28.9%	84.7%	100.0%	
	3.建物の構造	10.5%	30.5%	42.1%	16.8%	0.0%	10.5%	41.1%	83.2%	100.0%	
	4.教材・設備が限定的である	7.9%	30.0%	48.9%	12.6%	0.5%	7.9%	38.1%	87.3%	100.0%	
	5.同じ事業所の人間でも、発達支援を専門に長期にわたり行っているものがないため、相談しても不安が常に付きまとう	4.2%	10.0%	54.2%	31.6%	0.0%	4.2%	14.2%	68.4%	100.0%	
	6.発達支援のケースカンファレンスで議論ができない、自分の意見が言えない	2.6%	10.0%	58.9%	26.8%	1.6%	2.7%	12.8%	72.7%	100.0%	
	7.支援の後片付けや整理と次の計画と準備に必要な時間がとれない	17.9%	37.4%	37.4%	6.8%	0.5%	18.0%	55.6%	93.1%	100.0%	
	8.人員不足	28.4%	37.9%	28.4%	4.7%	0.5%	28.6%	66.7%	95.2%	100.0%	
	9.日々の発達支援がマンネリ化している。	6.3%	45.8%	43.2%	4.2%	0.5%	6.3%	52.4%	95.8%	100.0%	
10.職場内の人間関係に関する悩み	10.0%	22.6%	50.0%	17.4%	0.0%	10.0%	32.6%	82.6%	100.0%		
11.研修が足りない	10.0%	18.4%	59.5%	12.1%	0.0%	10.0%	28.4%	87.9%	100.0%		

3か月以上1年未満

※赤字は、とても困っている+困っているが60%以上のもの		とても困っている	困っている	あまり困っていない	全く困っていない	関係業務を行っていない	とても困っている	とても困っている+困っている	とても困っている+あまり困っていない	とても困っている+あまり困っていない+全く困っていない
自分問題	1.子どもとの関係の中でネガティブな気持ちになる	0.0%	14.3%	64.3%	21.4%	0.0%	0.0%	14.3%	78.6%	100.0%
	2.自分と子どもの関わりを通して、自分について振り返り、見つめ直すことで生じる自分の問題(トラウマ等)	7.1%	7.1%	71.4%	14.3%	0.0%	7.1%	14.3%	85.7%	100.0%
	3.自分の価値観と支援の在り方のギャップについて	0.0%	7.1%	71.4%	21.4%	0.0%	0.0%	7.1%	78.6%	100.0%
	4.身体上・健康上の問題(体力がなくて子どもが追いつけられない、腰が痛い等)	0.0%	21.4%	35.7%	42.9%	0.0%	0.0%	21.4%	57.1%	100.0%
発達支援(本人との関わり)	1.障害とは何かについて理解し、適切な対応(支援)を行う	0.0%	50.0%	42.9%	7.1%	0.0%	0.0%	50.0%	92.9%	100.0%
	2.発達支援の意味について理解し、適切な対応(支援)を行う	0.0%	64.3%	35.7%	0.0%	0.0%	0.0%	64.3%	100.0%	100.0%
	3.個々のこだわりへの対応	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	100.0%	100.0%
	4.子どもの気持ちのくみ取り	0.0%	64.3%	35.7%	0.0%	0.0%	0.0%	64.3%	100.0%	100.0%
	5.受け止めるどころと、導くところの境界線	7.1%	64.3%	14.3%	14.3%	0.0%	7.1%	71.4%	85.7%	100.0%
	6.その子に合った学習支援について	7.1%	50.0%	28.6%	0.0%	14.3%	8.3%	66.7%	100.0%	100.0%
	7.指示が入りにくい子どもへの対応の難しさ	7.1%	64.3%	28.6%	0.0%	0.0%	7.1%	71.4%	100.0%	100.0%
	8.子ども同士のトラブルの対応	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	9.次のプログラムへの切り替えが難しい子どもへの対応	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	100.0%	100.0%
	10.子どもがパニックや痙攣を起こしたときのクールダウンのさせ方	21.4%	50.0%	28.6%	0.0%	0.0%	21.4%	71.4%	100.0%	100.0%
	11.子どもとのコミュニケーションの難しさ	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	100.0%	100.0%
	12.実施した発達支援の妥当性への悩み・不安	0.0%	64.3%	35.7%	0.0%	0.0%	0.0%	64.3%	100.0%	100.0%
	13.専門知識の不足について(子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など)	21.4%	50.0%	28.6%	0.0%	0.0%	21.4%	71.4%	100.0%	100.0%
	14.プログラム、スケジュール、課題を考えること	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	71.4%	100.0%	100.0%
	15.発達段階を見立てて、どのような関わりや方法がいいのか	7.1%	50.0%	42.9%	0.0%	0.0%	7.1%	57.1%	100.0%	100.0%
	16.小さな子から中学生まで、重度の子から中学生の学習支援まで、個人で担当する発達支援の幅が広すぎる	0.0%	28.6%	35.7%	14.3%	21.4%	0.0%	36.4%	81.8%	100.0%
	17.集会のリーダーをした時の子どもの注意の集め方	0.0%	42.9%	42.9%	0.0%	14.3%	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	18.絵本など視覚教材の用い方	0.0%	21.4%	64.3%	7.1%	7.1%	0.0%	23.1%	92.3%	100.0%
	19.支援教材づくりの難しさ	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	100.0%	100.0%
	20.手遊びのやり方	0.0%	28.6%	57.1%	0.0%	14.3%	0.0%	33.3%	100.0%	100.0%
	21.大きな声を出す、動き回る、離席する等の集団参加が難しい子がいる場合の適切な対応の仕方(本人、集団、他児童の配慮含む)	21.4%	50.0%	28.6%	0.0%	0.0%	21.4%	71.4%	100.0%	100.0%
	22.子どもから暴言暴力を受けた時の適切な対応の仕方	0.0%	50.0%	42.9%	7.1%	0.0%	0.0%	50.0%	92.9%	100.0%
	23.子どもへの他害、自傷行為への対応	7.1%	35.7%	57.1%	0.0%	0.0%	7.1%	42.9%	100.0%	100.0%
	24.散歩等で子どもの安全を守ること	0.0%	14.3%	78.6%	7.1%	0.0%	0.0%	14.3%	92.9%	100.0%
	25.食事の支援	0.0%	28.6%	57.1%	0.0%	14.3%	0.0%	33.3%	100.0%	100.0%
	26.排泄、着脱等(食事を除く)の日常生活動作の支援	0.0%	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	85.7%	100.0%
地域	1.外部機関との連携の難しさ	0.0%	35.7%	28.6%	0.0%	35.7%	0.0%	55.6%	100.0%	100.0%
	2.地域資源がなくて繋がれない	0.0%	21.4%	35.7%	0.0%	42.9%	0.0%	37.5%	100.0%	100.0%
家族支援	1.保護者との関係づくりが難しい	7.1%	42.9%	42.9%	0.0%	7.1%	7.7%	53.8%	100.0%	100.0%
	2.子どもが怪我をしたときの保護者への対応	0.0%	28.6%	50.0%	7.1%	14.3%	0.0%	33.3%	91.7%	100.0%
	3.保護者と支援者との間の子どもに対する認識のズレ	0.0%	57.1%	35.7%	0.0%	7.1%	0.0%	61.5%	100.0%	100.0%
	4.困り感(外国籍や知的障害、精神疾患等)のある保護者とのコミュニケーションの難しさ	0.0%	42.9%	21.4%	0.0%	35.7%	0.0%	66.7%	100.0%	100.0%
	5.批判的な保護者との関係づくり	0.0%	35.7%	21.4%	14.3%	28.6%	0.0%	50.0%	80.0%	100.0%
	6.不適切な子育てをしている保護者への支援	0.0%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	50.0%	83.3%	100.0%
	7.事業所内面談の時間をとるのが難しい	0.0%	0.0%	42.9%	21.4%	35.7%	0.0%	0.0%	66.7%	100.0%
	8.子ども本人だけでなく家族も含めて支援していくことの難しさ	14.3%	57.1%	21.4%	0.0%	7.1%	15.4%	76.9%	100.0%	100.0%
支援をとりまく環境	1.事業所(組織)の方針が理解できない	0.0%	21.4%	35.7%	42.9%	0.0%	0.0%	21.4%	57.1%	100.0%
	2.ほかの職員や上司、部下との情報共有	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	100.0%	100.0%
	3.建物の構造	7.1%	21.4%	35.7%	35.7%	0.0%	7.1%	28.6%	64.3%	100.0%
	4.教材・設備が限定的である	0.0%	35.7%	35.7%	28.6%	0.0%	0.0%	35.7%	71.4%	100.0%
	5.同じ事業所の間でも、発達支援を専門に長期にわたり行っているものがないため、相談しても不安が常に付きまとう	7.1%	7.1%	42.9%	42.9%	0.0%	7.1%	14.3%	57.1%	100.0%
	6.発達支援のケースカンファレンスで議論ができない、自分の意見が言えない	7.1%	7.1%	50.0%	28.6%	7.1%	7.7%	15.4%	69.2%	100.0%
	7.支援の後片付けや整理と次の計画と準備に必要な十分な時間がとれない	7.1%	28.6%	57.1%	7.1%	0.0%	7.1%	35.7%	92.9%	100.0%
	8.人員不足	21.4%	42.9%	35.7%	0.0%	0.0%	21.4%	64.3%	100.0%	100.0%
	9.日々の発達支援がマンネリ化している。	7.1%	35.7%	42.9%	14.3%	0.0%	7.1%	42.9%	85.7%	100.0%
	10.職場内の人間関係に関する悩み	0.0%	28.6%	64.3%	7.1%	0.0%	0.0%	28.6%	92.9%	100.0%
	11.研修が足りない	7.1%	14.3%	57.1%	21.4%	0.0%	7.1%	21.4%	78.6%	100.0%

1年以上3年未満

※赤字は、とても困っている+困っているが60%以上のもの		とても困っている	困っている	あまり困っていない	全く困っていない	関係業務を行っていない	とても困っている	とても困っている+困っている	とても困っている+あまり困っていない	とても困っている+あまり困っていない+全く困っていない
自分問題	1.子どもとの関係の中でネガティブな気持ちになる	0.0%	19.6%	69.6%	10.9%	0.0%	0.0%	19.6%	89.1%	100.0%
	2.自分と子どもの関わりを通して、自分について振り返り、見つめ直すことで生じる自分の問題(トラウマ等)	0.0%	13.0%	67.4%	19.6%	0.0%	0.0%	13.0%	80.4%	100.0%
	3.自分の価値観と支援の在り方のギャップについて	10.9%	23.9%	58.7%	6.5%	0.0%	10.9%	34.8%	93.5%	100.0%
	4.身体上・健康上の問題(体力がなくて子どもが追いかけれられない、腰が痛い等)	2.2%	10.9%	45.7%	41.3%	0.0%	2.2%	13.0%	58.7%	100.0%
発達支援(本人との関わり)	1.障害とは何かについて理解し、適切な対応(支援)を行う	2.2%	28.3%	58.7%	10.9%	0.0%	2.2%	30.4%	89.1%	100.0%
	2.発達支援の意味について理解し、適切な対応(支援)を行う	2.2%	37.0%	52.2%	8.7%	0.0%	2.2%	39.1%	91.3%	100.0%
	3.個々のこだわりへの対応	4.3%	39.1%	47.8%	8.7%	0.0%	4.3%	43.5%	91.3%	100.0%
	4.子どもの気持ちのくみ取り	4.3%	43.5%	43.5%	8.7%	0.0%	4.3%	47.8%	91.3%	100.0%
	5.受け止めることと、導くところの境界線	6.5%	56.5%	30.4%	4.3%	2.2%	6.5%	63.0%	93.5%	100.0%
	6.その子に合った学習支援について	6.5%	28.3%	45.7%	2.2%	17.4%	6.5%	34.8%	80.4%	100.0%
	7.指示が入りにくい子どもへの対応の難しさ	8.7%	54.3%	34.8%	2.2%	0.0%	8.7%	63.0%	97.8%	100.0%
	8.子ども同士のトラブルの対応	6.5%	32.6%	52.2%	6.5%	2.2%	6.5%	39.1%	91.3%	100.0%
	9.次のプログラムへの切り替えが難しい子どもへの対応	6.5%	41.3%	50.0%	2.2%	0.0%	6.5%	47.8%	97.8%	100.0%
	10.子どもがパニックや癇癪を起こしたときのクールダウンのさせ方	10.9%	43.5%	41.3%	2.2%	2.2%	10.9%	54.3%	95.7%	100.0%
	11.子どもとのコミュニケーションの難しさ	4.3%	26.1%	54.3%	15.2%	0.0%	4.3%	30.4%	84.8%	100.0%
	12.実施した発達支援の妥当性への悩み・不安	6.5%	43.5%	47.8%	2.2%	0.0%	6.5%	50.0%	97.8%	100.0%
	13.専門知識の不足について(子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など)	19.6%	50.0%	30.4%	0.0%	0.0%	19.6%	69.6%	100.0%	100.0%
	14.プログラム、スケジュール、課題を考えること	6.5%	52.2%	39.1%	0.0%	2.2%	6.5%	58.7%	97.8%	100.0%
	15.発達段階を見立てて、どのような関わりや方法がいいのか	13.0%	50.0%	37.0%	0.0%	0.0%	13.0%	63.0%	100.0%	100.0%
	16.小さな子から中学生まで、重度の子から中学生の学習支援まで、個人で担当する発達支援の幅が広すぎる	2.2%	15.2%	34.8%	10.9%	37.0%	2.2%	17.4%	52.2%	100.0%
	17.集会のリーダーをした時の子どもの注意の集め方	4.3%	32.6%	39.1%	4.3%	19.6%	4.3%	37.0%	76.1%	100.0%
	18.絵本など視覚教材の用い方	2.2%	23.9%	60.9%	8.7%	4.3%	2.2%	26.1%	87.0%	100.0%
	19.支援教材づくりの難しさ	6.5%	39.1%	47.8%	2.2%	4.3%	6.5%	45.7%	93.5%	100.0%
	20.手遊びのやり方	8.7%	15.2%	65.2%	6.5%	4.3%	8.7%	23.9%	89.1%	100.0%
	21.大きな声を出す、動き回る、離席する等の集団参加が難しい子がいる場合の適切な対応の仕方(本人、集団、他児童の配慮含む)	8.7%	60.9%	23.9%	2.2%	4.3%	8.7%	69.6%	93.5%	100.0%
22.子どもから暴言暴力を受けた時の適切な対応の仕方	6.5%	28.3%	54.3%	6.5%	4.3%	6.5%	34.8%	89.1%	100.0%	
23.子どもへの他害、自傷行為への対応	6.5%	32.6%	54.3%	4.3%	2.2%	6.5%	39.1%	93.5%	100.0%	
24.散歩等で子どもの安全を守る	0.0%	15.2%	65.2%	10.9%	8.7%	0.0%	15.2%	80.4%	100.0%	
25.食事の支援	6.5%	39.1%	37.0%	2.2%	15.2%	6.5%	45.7%	82.6%	100.0%	
26.排泄、着脱等(食事を除く)の日常生活動作の支援	6.5%	26.1%	50.0%	6.5%	10.9%	6.5%	32.6%	82.6%	100.0%	
地域	1.外部機関との連携の難しさ	10.9%	19.6%	41.3%	0.0%	28.3%	10.9%	30.4%	71.7%	100.0%
	2.地域資源がなくて繋がられない	4.3%	19.6%	34.8%	0.0%	41.3%	4.3%	23.9%	58.7%	100.0%
家族支援	1.保護者との関係づくりが難しい	0.0%	39.1%	58.7%	2.2%	0.0%	0.0%	39.1%	97.8%	100.0%
	2.子どもが怪我をしたときの保護者への対応	0.0%	19.6%	73.9%	4.3%	2.2%	0.0%	19.6%	93.5%	100.0%
	3.保護者と支援者との間の子どもに対する認識のズレ	8.7%	56.5%	34.8%	0.0%	0.0%	8.7%	65.2%	100.0%	100.0%
	4.困り感(外国籍や知的障害、精神疾患等)のある保護者とのコミュニケーションの難しさ	4.3%	45.7%	39.1%	0.0%	10.9%	4.3%	50.0%	89.1%	100.0%
	5.批判的な保護者との関係づくり	6.5%	39.1%	37.0%	2.2%	15.2%	6.5%	45.7%	82.6%	100.0%
	6.不適切な子育てをしている保護者への支援	10.9%	28.3%	34.8%	6.5%	19.6%	10.9%	39.1%	73.9%	100.0%
	7.事業所内面談の時間をとるのが難しい	4.3%	21.7%	43.5%	4.3%	26.1%	4.3%	26.1%	69.6%	100.0%
	8.子ども本人だけでなく家族も含めて支援していくことの難しさ	10.9%	52.2%	32.6%	0.0%	4.3%	10.9%	63.0%	95.7%	100.0%
支援をとりまく環境	1.事業所(組織)の方針が理解できない	0.0%	8.7%	52.2%	39.1%	0.0%	0.0%	8.7%	60.9%	100.0%
	2.ほかの職員や上司、部下との情報共有	10.9%	21.7%	45.7%	21.7%	0.0%	10.9%	32.6%	78.3%	100.0%
	3.建物の構造	10.9%	15.2%	56.5%	17.4%	0.0%	10.9%	26.1%	82.6%	100.0%
	4.教材・設備が限定的である	10.9%	28.3%	47.8%	13.0%	0.0%	10.9%	39.1%	87.0%	100.0%
	5.同じ事業所の人間でも、発達支援を専門に長期にわたり行っているものがないため、相談しても不安が常に付きまとう	2.2%	8.7%	43.5%	45.7%	0.0%	2.2%	10.9%	54.3%	100.0%
	6.発達支援のケースカンファレンスで議論ができない、自分の意見が言えない	2.2%	15.2%	60.9%	19.6%	2.2%	2.2%	17.4%	78.3%	100.0%
	7.支援の後片付けや整理と次の計画と準備に必要な十分な時間がとれない	28.3%	30.4%	37.0%	4.3%	0.0%	28.3%	58.7%	95.7%	100.0%
	8.人員不足	34.8%	28.3%	32.6%	4.3%	0.0%	34.8%	63.0%	95.7%	100.0%
	9.日々の発達支援がマンネリ化している。	10.9%	47.8%	37.0%	4.3%	0.0%	10.9%	58.7%	95.7%	100.0%
	10.職場内の人間関係に関する悩み	17.4%	21.7%	43.5%	17.4%	0.0%	17.4%	39.1%	82.6%	100.0%
	11.研修が足りない	10.9%	13.0%	65.2%	10.9%	0.0%	10.9%	23.9%	89.1%	100.0%

3年以上5年未満

※赤字は、とても困っている+困っているが60%以上のもの		とても困っている	困っている	あまり困っていない	全く困っていない	関係業務を行っていない	とても困っている	とても困っている+困っている	とても困っている+困っていない	とても困っている+困っていない+全く困っていない
自分問題	1.子どもとの関係の中でネガティブな気持ちになる	0.0%	23.3%	66.7%	10.0%	0.0%	0.0%	23.3%	90.0%	100.0%
	2.自分と子どもの関わりを通して、自分について振り返り、見つめ直すことで生じる自分の問題(トラウマ等)	0.0%	20.0%	63.3%	16.7%	0.0%	0.0%	20.0%	83.3%	100.0%
	3.自分の価値観と支援の在り方のギャップについて	0.0%	23.3%	66.7%	10.0%	0.0%	0.0%	23.3%	90.0%	100.0%
	4.身体上・健康上の問題(体力がなくて子どもが追いつけられない、腰が痛い等)	0.0%	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%	0.0%	20.0%	70.0%	100.0%
発達支援(本人との関わり)	1.障害とは何かについて理解し、適切な対応(支援)を行う	3.3%	33.3%	56.7%	6.7%	0.0%	3.3%	36.7%	93.3%	100.0%
	2.発達支援の意味について理解し、適切な対応(支援)を行う	3.3%	33.3%	56.7%	6.7%	0.0%	3.3%	36.7%	93.3%	100.0%
	3.個々のこだわりへの対応	10.0%	36.7%	53.3%	0.0%	0.0%	10.0%	46.7%	100.0%	100.0%
	4.こどもの気持ちのくみ取り	0.0%	43.3%	53.3%	3.3%	0.0%	0.0%	43.3%	96.7%	100.0%
	5.受け止めるところと、導くところの境界線	10.0%	46.7%	43.3%	0.0%	0.0%	10.0%	56.7%	100.0%	100.0%
	6.その子に合った学習支援について	6.7%	46.7%	26.7%	3.3%	16.7%	8.0%	64.0%	96.0%	100.0%
	7.指示が入りにくい子どもへの対応の難しさ	6.7%	60.0%	33.3%	0.0%	0.0%	6.7%	66.7%	100.0%	100.0%
	8.子ども同士のトラブルの対応	3.3%	36.7%	53.3%	3.3%	3.3%	3.4%	41.4%	96.6%	100.0%
	9.次のプログラムへの切り替えが難しい子どもへの対応	3.3%	53.3%	40.0%	3.3%	0.0%	3.3%	56.7%	96.7%	100.0%
	10.子どもがパニックや痙攣を起こしたときのクールダウンのさせ方	13.3%	50.0%	33.3%	3.3%	0.0%	13.3%	63.3%	96.7%	100.0%
	11.子どもとのコミュニケーションの難しさ	0.0%	30.0%	53.3%	16.7%	0.0%	0.0%	30.0%	83.3%	100.0%
	12.実施した発達支援の妥当性への悩み・不安	6.7%	43.3%	50.0%	0.0%	0.0%	6.7%	50.0%	100.0%	100.0%
	13.専門知識の不足について(子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など)	10.0%	40.0%	43.3%	6.7%	0.0%	10.0%	50.0%	93.3%	100.0%
	14.プログラム、スケジュール、課題を考えること	10.0%	36.7%	50.0%	3.3%	0.0%	10.0%	46.7%	96.7%	100.0%
	15.発達段階を見立てて、どのような関わりや方法がいいのか	6.7%	53.3%	40.0%	0.0%	0.0%	6.7%	60.0%	100.0%	100.0%
	16.小さな子から中学生まで、重度の子から中学生の学習支援まで、個人で担当する発達支援の幅が広すぎる	6.7%	26.7%	26.7%	6.7%	33.3%	10.0%	50.0%	90.0%	100.0%
	17.集会のリーダーをした時の子どもの注意の集め方	0.0%	33.3%	53.3%	0.0%	13.3%	0.0%	38.5%	100.0%	100.0%
	18.絵本など視覚教材の用い方	0.0%	30.0%	53.3%	6.7%	10.0%	0.0%	33.3%	92.6%	100.0%
	19.支援教材づくりの難しさ	3.3%	56.7%	30.0%	3.3%	6.7%	3.6%	64.3%	96.4%	100.0%
	20.手遊びのやり方	0.0%	30.0%	50.0%	6.7%	13.3%	0.0%	34.6%	92.3%	100.0%
	21.大きな声を出す、動き回る、離席する等の集団参加が難しい子がいる場合の適切な対応の仕方(本人、集団、他児童の配慮含む)	3.3%	50.0%	40.0%	0.0%	6.7%	3.6%	57.1%	100.0%	100.0%
	22.子どもから暴言暴力を受けた時の適切な対応の仕方	0.0%	43.3%	46.7%	3.3%	6.7%	0.0%	46.4%	96.4%	100.0%
	23.子どもへの他害、自傷行為への対応	6.7%	50.0%	43.3%	0.0%	0.0%	6.7%	56.7%	100.0%	100.0%
	24.散歩等で子どもの安全を守る	6.7%	16.7%	63.3%	3.3%	10.0%	7.4%	25.9%	96.3%	100.0%
	25.食事の支援	3.3%	30.0%	40.0%	3.3%	23.3%	4.3%	43.5%	95.7%	100.0%
	26.排泄、着脱等(食事を除く)の日常生活動作の支援	0.0%	30.0%	53.3%	0.0%	16.7%	0.0%	36.0%	100.0%	100.0%
地域	1.外部機関との連携の難しさ	6.7%	30.0%	53.3%	0.0%	10.0%	7.4%	40.7%	100.0%	100.0%
	2.地域資源がなくて繋げられない	0.0%	13.3%	60.0%	0.0%	26.7%	0.0%	18.2%	100.0%	100.0%
家族支援	1.保護者との関係づくりが難しい	6.7%	33.3%	53.3%	6.7%	0.0%	6.7%	40.0%	93.3%	100.0%
	2.子どもが怪我をしたときの保護者への対応	3.3%	30.0%	60.0%	6.7%	0.0%	3.3%	33.3%	93.3%	100.0%
	3.保護者と支援者との間の子どもに対する認識のズレ	10.0%	50.0%	33.3%	3.3%	3.3%	10.3%	62.1%	96.6%	100.0%
	4.困り感(外国籍や知的障害、精神疾患等)のある保護者とのコミュニケーションの難しさ	13.3%	43.3%	40.0%	0.0%	3.3%	13.8%	58.6%	100.0%	100.0%
	5.批判的な保護者との関係づくり	6.7%	33.3%	43.3%	6.7%	10.0%	7.4%	44.4%	92.6%	100.0%
	6.不適切な子育てをしている保護者への支援	20.0%	33.3%	40.0%	0.0%	6.7%	21.4%	57.1%	100.0%	100.0%
	7.事業所内面談の時間をとるのが難しい	3.3%	26.7%	43.3%	6.7%	20.0%	4.2%	37.5%	91.7%	100.0%
	8.子ども本人だけでなく家族も含めて支援していくことの難しさ	13.3%	56.7%	30.0%	0.0%	0.0%	13.3%	70.0%	100.0%	100.0%
支援をとりまく環境	1.事業所(組織)の方針が理解できない	3.3%	10.0%	56.7%	30.0%	0.0%	3.3%	13.3%	70.0%	100.0%
	2.ほかの職員や上司、部下との情報共有	0.0%	33.3%	46.7%	20.0%	0.0%	0.0%	33.3%	80.0%	100.0%
	3.建物の構造	10.0%	30.0%	46.7%	13.3%	0.0%	10.0%	40.0%	86.7%	100.0%
	4.教材・設備が限定的である	3.3%	30.0%	53.3%	13.3%	0.0%	3.3%	33.3%	86.7%	100.0%
	5.同じ事業所の間でも、発達支援を専門に長期にわたり行っているものがないため、相談しても不安が常に付きまとう	6.7%	10.0%	53.3%	30.0%	0.0%	6.7%	16.7%	70.0%	100.0%
	6.発達支援のケースカンファレンスで議論ができない、自分の意見が言えない	0.0%	3.3%	53.3%	43.3%	0.0%	0.0%	3.3%	56.7%	100.0%
	7.支援の後片付けや整理と次の計画と準備に必要な十分な時間がとれない	10.0%	36.7%	33.3%	20.0%	0.0%	10.0%	46.7%	80.0%	100.0%
	8.人員不足	30.0%	33.3%	30.0%	6.7%	0.0%	30.0%	63.3%	93.3%	100.0%
	9.日々の発達支援がマンネリ化している。	3.3%	43.3%	46.7%	6.7%	0.0%	3.3%	46.7%	93.3%	100.0%
	10.職場内の人間関係に関する悩み	6.7%	20.0%	53.3%	20.0%	0.0%	6.7%	26.7%	80.0%	100.0%
	11.研修が足りない	6.7%	20.0%	43.3%	30.0%	0.0%	6.7%	26.7%	70.0%	100.0%

5年以上7年未満

※赤字は、とても困っている+困っているが60%以上のもの		とても困っている	困っている	あまり困っていない	全く困っていない	関係業務を行っていない	とても困っている	とても困っている+困っている	とても困っている+困っていない	とても困っている+困っていない+あまり困っていない
自分 問題	1.子どもとの関係の中でネガティブな気持ちになる	0.0%	20.0%	64.0%	16.0%	0.0%	0.0%	20.0%	84.0%	100.0%
	2.自分と子どもの関わりを通して、自分について振り返り、見つめ直すことで生じる自分の問題(トラウマ等)	4.0%	12.0%	72.0%	12.0%	0.0%	4.0%	16.0%	88.0%	100.0%
	3.自分の価値観と支援の在り方のギャップについて	0.0%	16.0%	80.0%	4.0%	0.0%	0.0%	16.0%	96.0%	100.0%
	4.身体上・健康上の問題(体力がなくて子どもが追いかけられない、腰が痛い等)	0.0%	16.0%	44.0%	40.0%	0.0%	0.0%	16.0%	60.0%	100.0%
発達 支援 (本人との 関わり)	1.障害とは何かについて理解し、適切な対応(支援)を行う	0.0%	20.0%	64.0%	16.0%	0.0%	0.0%	20.0%	84.0%	100.0%
	2.発達支援の意味について理解し、適切な対応(支援)を行う	0.0%	36.0%	52.0%	12.0%	0.0%	0.0%	36.0%	88.0%	100.0%
	3.個々のこだわりへの対応	4.0%	52.0%	40.0%	4.0%	0.0%	4.0%	56.0%	96.0%	100.0%
	4.こどもの気持ちのくみ取り	0.0%	28.0%	68.0%	4.0%	0.0%	0.0%	28.0%	96.0%	100.0%
	5.受け止めるところと、導くところの境界線	0.0%	32.0%	64.0%	4.0%	0.0%	0.0%	32.0%	96.0%	100.0%
	6.その子に合った学習支援について	0.0%	32.0%	52.0%	0.0%	16.0%	0.0%	38.1%	100.0%	100.0%
	7.指示が入りにくい子どもへの対応の難しさ	4.0%	52.0%	44.0%	0.0%	0.0%	4.0%	56.0%	100.0%	100.0%
	8.子ども同士のトラブルの対応	8.0%	16.0%	68.0%	4.0%	4.0%	8.3%	25.0%	95.8%	100.0%
	9.次のプログラムへの切り替えが難しい子どもへの対応	0.0%	36.0%	60.0%	0.0%	4.0%	0.0%	37.5%	100.0%	100.0%
	10.子どもがパニックや癇癪を起こしたときのクールダウンのさせ方	4.0%	36.0%	60.0%	0.0%	0.0%	4.0%	40.0%	100.0%	100.0%
	11.子どもとのコミュニケーションの難しさ	0.0%	20.0%	72.0%	8.0%	0.0%	0.0%	20.0%	92.0%	100.0%
	12.実施した発達支援の妥当性への悩み・不安	0.0%	52.0%	48.0%	0.0%	0.0%	0.0%	52.0%	100.0%	100.0%
	13.専門知識の不足について(子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など)	4.0%	56.0%	40.0%	0.0%	0.0%	4.0%	60.0%	100.0%	100.0%
	14.プログラム、スケジュール、課題を考えること	0.0%	52.0%	44.0%	4.0%	0.0%	0.0%	52.0%	96.0%	100.0%
	15.発達段階を見立てて、どのような関わりや方法がいいのか	0.0%	48.0%	52.0%	0.0%	0.0%	0.0%	48.0%	100.0%	100.0%
	16.小さな子から中学生まで、重度の子から中学生の学習支援まで、個人で担当する発達支援の幅が広すぎる	4.0%	20.0%	40.0%	4.0%	32.0%	5.9%	35.3%	94.1%	100.0%
	17.集会のリーダーをした時の子どもの注意の集め方	0.0%	24.0%	72.0%	0.0%	4.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%
	18.絵本など視覚教材の用い方	0.0%	12.0%	80.0%	8.0%	0.0%	0.0%	12.0%	92.0%	100.0%
	19.支援教材づくりの難しさ	4.0%	40.0%	56.0%	0.0%	0.0%	4.0%	44.0%	100.0%	100.0%
	20.手遊びのやり方	4.0%	20.0%	72.0%	4.0%	0.0%	4.0%	24.0%	96.0%	100.0%
	21.大きな声を出す、動き回る、離席する等の集団参加が難しい子がいる場合の適切な対応の仕方(本人、集団、他児童の配慮含む)	4.0%	64.0%	32.0%	0.0%	0.0%	4.0%	68.0%	100.0%	100.0%
	22.子どもから暴言暴力を受けた時の適切な対応の仕方	4.0%	24.0%	56.0%	12.0%	4.0%	4.2%	29.2%	87.5%	100.0%
	23.子どもへの他害、自傷行為への対応	8.0%	32.0%	52.0%	4.0%	4.0%	8.3%	41.7%	95.8%	100.0%
	24.散歩等で子どもの安全を守る	0.0%	16.0%	68.0%	0.0%	16.0%	0.0%	19.0%	100.0%	100.0%
	25.食事の支援	0.0%	36.0%	44.0%	0.0%	20.0%	0.0%	45.0%	100.0%	100.0%
	26.排泄、着脱等(食事を除く)の日常生活動作の支援	0.0%	20.0%	68.0%	0.0%	12.0%	0.0%	22.7%	100.0%	100.0%
地域	1.外部機関との連携の難しさ	8.0%	36.0%	36.0%	0.0%	20.0%	10.0%	55.0%	100.0%	100.0%
	2.地域資源がなくて繋げられない	8.0%	16.0%	48.0%	0.0%	28.0%	11.1%	33.3%	100.0%	100.0%
家族 支援	1.保護者との関係づくりが難しい	4.0%	24.0%	72.0%	0.0%	0.0%	4.0%	28.0%	100.0%	100.0%
	2.子どもが怪我をしたときの保護者への対応	0.0%	12.0%	84.0%	0.0%	4.0%	0.0%	12.5%	100.0%	100.0%
	3.保護者と支援者との間の子どもに対する認識のズレ	8.0%	44.0%	48.0%	0.0%	0.0%	8.0%	52.0%	100.0%	100.0%
	4.困り感(外国籍や知的障害、精神疾患等)のある保護者とのコミュニケーションの難しさ	4.0%	56.0%	28.0%	4.0%	8.0%	4.3%	65.2%	95.7%	100.0%
	5.批判的な保護者との関係づくり	8.0%	36.0%	44.0%	4.0%	8.0%	8.7%	47.8%	95.7%	100.0%
	6.不適切な子育てをしている保護者への支援	8.0%	48.0%	32.0%	4.0%	8.0%	8.7%	60.9%	95.7%	100.0%
	7.事業所内面談の時間をとるのが難しい	4.0%	24.0%	56.0%	8.0%	8.0%	4.3%	30.4%	91.3%	100.0%
	8.子ども本人だけでなく家族も含めて支援していくことの難しさ	20.0%	44.0%	32.0%	0.0%	4.0%	20.8%	66.7%	100.0%	100.0%
支援を とり まく 環境	1.事業所(組織)の方針が理解できない	0.0%	0.0%	68.0%	32.0%	0.0%	0.0%	0.0%	68.0%	100.0%
	2.ほかの職員や上司、部下との情報共有	0.0%	20.0%	64.0%	16.0%	0.0%	0.0%	20.0%	84.0%	100.0%
	3.建物の構造	0.0%	48.0%	40.0%	12.0%	0.0%	0.0%	48.0%	88.0%	100.0%
	4.教材・設備が限定的である	4.0%	28.0%	56.0%	12.0%	0.0%	4.0%	32.0%	88.0%	100.0%
	5.同じ事業所の人間でも、発達支援を専門に長期にわたり行っているものがないため、相談しても不安が常に付きまとう	0.0%	8.0%	60.0%	32.0%	0.0%	0.0%	8.0%	68.0%	100.0%
	6.発達支援のケースカンファレンスで議論ができない、自分の意見が言えない	0.0%	8.0%	64.0%	28.0%	0.0%	0.0%	8.0%	72.0%	100.0%
	7.支援の後片付けや整理と次の計画と準備に必要な時間がとれない	16.0%	44.0%	40.0%	0.0%	0.0%	16.0%	60.0%	100.0%	100.0%
	8.人員不足	28.0%	40.0%	32.0%	0.0%	0.0%	28.0%	68.0%	100.0%	100.0%
	9.日々の発達支援がマンネリ化している。	4.0%	48.0%	48.0%	0.0%	0.0%	4.0%	52.0%	100.0%	100.0%
	10.職場内の人間関係に関する悩み	4.0%	16.0%	60.0%	20.0%	0.0%	4.0%	20.0%	80.0%	100.0%
	11.研修が足りない	4.0%	32.0%	60.0%	4.0%	0.0%	4.0%	36.0%	96.0%	100.0%

7年以上10年未満

※赤字は、とても困っている+困っているが60%以上のもの		とても困っている	困っている	あまり困っていない	全く困っていない	関係業務を行っていない	とても困っている	とても困っている+困っている	とても困っている+困っている+あまり困っていない	とても困っている+困っている+あまり困っていない+全く困っていない
自分問題	1.子どもとの関係の中でネガティブな気持ちになる	0.0%	9.7%	77.4%	12.9%	0.0%	0.0%	9.7%	87.1%	100.0%
	2.自分と子どもの関わりを通して、自分について振り返り、見つめ直すことで生じる自分の問題(トラウマ等)	0.0%	16.1%	64.5%	19.4%	0.0%	0.0%	16.1%	80.6%	100.0%
	3.自分の価値観と支援の在り方のギャップについて	3.2%	29.0%	61.3%	6.5%	0.0%	3.2%	32.3%	93.5%	100.0%
	4.身体上・健康上の問題(体力がなくて子どもが追いつけられない、腰が痛い等)	0.0%	32.3%	38.7%	29.0%	0.0%	0.0%	32.3%	71.0%	100.0%
発達支援(本人との関わり)	1.障害とは何かについて理解し、適切な対応(支援)を行う	0.0%	22.6%	67.7%	9.7%	0.0%	0.0%	22.6%	90.3%	100.0%
	2.発達支援の意味について理解し、適切な対応(支援)を行う	0.0%	25.8%	64.5%	9.7%	0.0%	0.0%	25.8%	90.3%	100.0%
	3.個々のこだわりへの対応	0.0%	54.8%	45.2%	0.0%	0.0%	0.0%	54.8%	100.0%	100.0%
	4.子どもの気持ちのくみ取り	0.0%	45.2%	51.6%	3.2%	0.0%	0.0%	45.2%	96.8%	100.0%
	5.受け止めるところと、導くところの境界線	0.0%	48.4%	48.4%	3.2%	0.0%	0.0%	48.4%	96.8%	100.0%
	6.その子に合った学習支援について	0.0%	51.6%	32.3%	0.0%	16.1%	0.0%	61.5%	100.0%	100.0%
	7.指示が入りにくい子どもへの対応の難しさ	3.2%	48.4%	48.4%	0.0%	0.0%	3.2%	51.6%	100.0%	100.0%
	8.子ども同士のトラブルの対応	0.0%	48.4%	51.6%	0.0%	0.0%	0.0%	48.4%	100.0%	100.0%
	9.次のプログラムへの切り替えが難しい子どもへの対応	0.0%	35.5%	61.3%	3.2%	0.0%	0.0%	35.5%	96.8%	100.0%
	10.子どもがパニックや癇癪を起こしたときのクールダウンのさせ方	3.2%	48.4%	45.2%	3.2%	0.0%	3.2%	51.6%	96.8%	100.0%
	11.子どもとのコミュニケーションの難しさ	0.0%	41.9%	54.8%	3.2%	0.0%	0.0%	41.9%	96.8%	100.0%
	12.実施した発達支援の妥当性への悩み・不安	3.2%	61.3%	35.5%	0.0%	0.0%	3.2%	64.5%	100.0%	100.0%
	13.専門知識の不足について(子どもの見立て、支援内容、方向性、目標設定など)	3.2%	54.8%	38.7%	0.0%	3.2%	3.3%	60.0%	100.0%	100.0%
	14.プログラム、スケジュール、課題を考えること	6.5%	48.4%	38.7%	3.2%	3.2%	6.7%	56.7%	96.7%	100.0%
	15.発達段階を見立てて、どのような関わりや方法がいいのか	6.5%	48.4%	45.2%	0.0%	0.0%	6.5%	54.8%	100.0%	100.0%
	16.小さな子から中学生まで、重度の子から中学生の学習支援まで、個人で担当する発達支援の幅が広すぎる	0.0%	12.9%	48.4%	12.9%	25.8%	0.0%	17.4%	82.6%	100.0%
	17.集会のリーダーをした時の子どもの注意の集め方	3.2%	19.4%	71.0%	0.0%	6.5%	3.4%	24.1%	100.0%	100.0%
	18.絵本など視覚教材の用い方	0.0%	19.4%	71.0%	6.5%	3.2%	0.0%	20.0%	93.3%	100.0%
	19.支援教材づくりの難しさ	3.2%	54.8%	35.5%	3.2%	3.2%	3.3%	60.0%	96.7%	100.0%
	20.手遊びのやり方	0.0%	16.1%	67.7%	12.9%	3.2%	0.0%	16.7%	86.7%	100.0%
	21.大きな声を出す、動き回る、離席する等の集団参加が難しい子がいる場合の適切な対応の仕方(本人、集団、他児童の配慮含む)	3.2%	41.9%	51.6%	3.2%	0.0%	3.2%	45.2%	96.8%	100.0%
	22.子どもから暴言暴力を受けた時の適切な対応の仕方	0.0%	29.0%	58.1%	9.7%	3.2%	0.0%	30.0%	90.0%	100.0%
	23.子どもへの他害、自傷行為への対応	3.2%	45.2%	48.4%	3.2%	0.0%	3.2%	48.4%	96.8%	100.0%
	24.散歩等で子どもの安全を守る	3.2%	25.8%	61.3%	0.0%	9.7%	3.6%	32.1%	100.0%	100.0%
	25.食事の支援	3.2%	38.7%	45.2%	0.0%	12.9%	3.7%	48.1%	100.0%	100.0%
	26.排泄、着脱等(食事を除く)の日常生活動作の支援	0.0%	22.6%	61.3%	3.2%	12.9%	0.0%	25.9%	96.3%	100.0%
地域	1.外部機関との連携の難しさ	3.2%	51.6%	29.0%	3.2%	12.9%	3.7%	63.0%	96.3%	100.0%
	2.地域資源がなくて繋がらない	0.0%	35.5%	32.3%	6.5%	25.8%	0.0%	47.8%	91.3%	100.0%
家族支援	1.保護者との関係づくりが難しい	3.2%	35.5%	61.3%	0.0%	0.0%	3.2%	38.7%	100.0%	100.0%
	2.子どもが怪我をしたときの保護者への対応	0.0%	19.4%	80.6%	0.0%	0.0%	0.0%	19.4%	100.0%	100.0%
	3.保護者と支援者との間の子どもに対する認識のズレ	12.9%	54.8%	32.3%	0.0%	0.0%	12.9%	67.7%	100.0%	100.0%
	4.困り感(外国籍や知的障害、精神疾患等)のある保護者とのコミュニケーションの難しさ	9.7%	64.5%	16.1%	9.7%	0.0%	9.7%	74.2%	90.3%	100.0%
	5.批判的な保護者との関係づくり	16.1%	58.1%	16.1%	0.0%	9.7%	17.9%	82.1%	100.0%	100.0%
	6.不適切な子育てをしている保護者への支援	6.5%	71.0%	19.4%	0.0%	3.2%	6.7%	80.0%	100.0%	100.0%
	7.事業所内面談の時間をとるのが難しい	3.2%	29.0%	58.1%	3.2%	6.5%	3.4%	34.5%	96.6%	100.0%
	8.子ども本人だけでなく家族も含めて支援していくことの難しさ	12.9%	54.8%	32.3%	0.0%	0.0%	12.9%	67.7%	100.0%	100.0%
支援をとりまく環境	1.事業所(組織)の方針が理解できない	0.0%	6.5%	74.2%	19.4%	0.0%	0.0%	6.5%	80.6%	100.0%
	2.ほかの職員や上司、部下との情報共有	0.0%	19.4%	74.2%	6.5%	0.0%	0.0%	19.4%	93.5%	100.0%
	3.建物の構造	9.7%	29.0%	41.9%	19.4%	0.0%	9.7%	38.7%	80.6%	100.0%
	4.教材・設備が限定的である	9.7%	29.0%	48.4%	12.9%	0.0%	9.7%	38.7%	87.1%	100.0%
	5.同じ事業所の人間でも、発達支援を専門に長期にわたり行っているものがないため、相談しても不安が常に付きまとう	3.2%	16.1%	64.5%	16.1%	0.0%	3.2%	19.4%	83.9%	100.0%
	6.発達支援のケースカンファレンスで議論ができない、自分の意見が言えない	3.2%	12.9%	58.1%	22.6%	3.2%	3.3%	16.7%	76.7%	100.0%
	7.支援の後片付けや整理と次の計画と準備に必要な十分な時間がとれない	22.6%	35.5%	38.7%	3.2%	0.0%	22.6%	58.1%	96.8%	100.0%
	8.人員不足	32.3%	41.9%	19.4%	6.5%	0.0%	32.3%	74.2%	93.5%	100.0%
	9.日々の発達支援がマンネリ化している。	6.5%	51.6%	38.7%	3.2%	0.0%	6.5%	58.1%	96.8%	100.0%
	10.職場内の人間関係に関する悩み	6.5%	22.6%	58.1%	12.9%	0.0%	6.5%	29.0%	87.1%	100.0%
	11.研修が足りない	16.1%	16.1%	58.1%	9.7%	0.0%	16.1%	32.3%	90.3%	100.0%